

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

12241

調査研究事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	博物館費		
	大事業	博物館事業		
中事業	調査研究事業			

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel
事業実施の根拠法令	博物館法・文化財保護法・和歌山市立博物館条例		関連課	博物館 前田 敬彦 423-0003

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	将来の特別展等に関する資料の調査や和歌山と関連の深い文化財の研究を行う。		将来の特別展等に関する資料の調査や和歌山と関連の深い文化財の研究を行う事業であり、博物館活動の根底を支える基本的な事業。			
事業内容		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		将来の特別展に関する資料の調査や和歌山と関連の深い文化財の研究を行う。	将来の特別展に関する資料の調査や和歌山と関連の深い文化財の研究を行う。調査成果は、特別展図録や研究紀要で随時公表する。	将来の特別展等に関する資料の調査や和歌山と関連の深い文化財の研究を行う。調査成果は、特別展図録や研究紀要で随時公表する。	将来の特別展等に関する資料の調査や和歌山と関連の深い文化財の研究を行う。調査成果は、特別展図録や研究紀要で随時公表する。	将来の特別展等に関する資料の調査や和歌山と関連の深い文化財の研究を行う。調査成果は、特別展図録や研究紀要で随時公表する。

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	355	444	606	586	731	659	731	0	731	0
伸び率(%)	△50.3%	△32.3%	70.7%	32%	20.6%	12.5%	0%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	3,258	1,319	3,270	3,192	4,008	4,008	3,300	0	3,300
	正規職員以外	640	2,255	500	500	512	512	512	0	512
	小計	3,898	3,574	3,770	3,692	4,520	4,520	3,812	0	3,812
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	125	49	225	74	220	70	240	0	240	0
一般財源(税等)	230	395	381	512	511	589	491	0	491	0
所要人数 (人)	正規職員	0.42	0.17	0.42	0.41	0.51	0.51	0.42	0.00	0.42
	正規職員以外	0.19	0.57	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.10
主な予算内訳	印刷製本費726千円									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
研究紀要掲載論文本数		本	目標値	7	7	7	7	7
			実績値	4	6	8		
			達成度(%)	57.1%	85.7%	114.3%	%	%
調査資料件数		件	目標値	120	120	400	400	400
			実績値	97	103	424		
			達成度(%)	80.8%	85.8%	106%	%	%
出陳資料件数		件	目標値	120	120	400	400	400
			実績値	97	103	424		
			達成度(%)	80.8%	85.8%	106%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	調査研究事業は、和歌山市の歴史を解明する基礎的な事業で、将来の特別展の準備作業であるとともに、和歌山市の歴史の記録を解明し、将来に伝える重要な事業であるため、継続する必要がある。
見直し・改善内容	調査研究は、和歌山市の歴史の解明や特別展等を行う際の基礎となる重要な事業である。現在の環境の中で継続する必要がある。